

第69次 印旛教育研究集会
総合的な学習の時間 部会

研究主題

自己の生き方を見つめ直す姿勢を育む総合的な学習の時間の在り方

—福祉学習を通じた自己肯定感・自己有用感の向上への取り組み—



八街市立八街中学校
教諭 西村 三郎

1 研究主題

自己の生き方を見つめ直す姿勢を育む総合的な学習の時間の在り方

ー福祉学習を通じた自己肯定感・自己有用感の向上への取り組みー

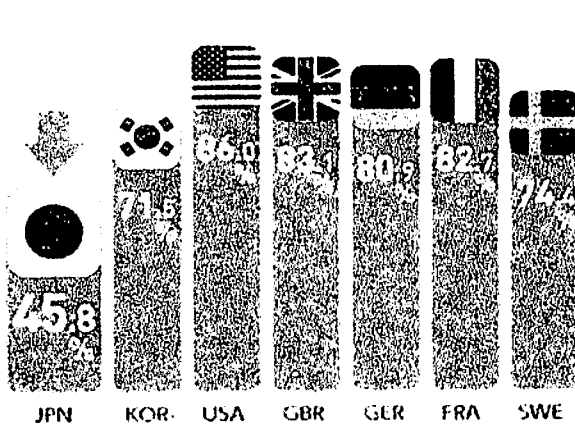
2 主題設定の理由

(1) 社会的背景から

目まぐるしく変化を続ける現代社会において、現在存在する職業が10年後にはAIや機械にとって替わられるとの報告がオックスフォード大学の研究などによりなされている。予測不能な未来を迎える子ども達が思いがけない壁にぶつかることも十分考えられ、ぶつかった際には乗り越えていかねばならない。そのためにもより良く、前向きに生きることができるよう自分の良さを認識し、それを生かそうとする態度が大切である。何より我々教員も生徒の人格形成において、そのような点を向上させていく使命がある。しかしながら内閣府の調査によると、児童生徒の自己肯定感が国際社会において著しく低いというデータがある。「自分には長所がない」「自分には何もできない」「自分は無力である」などという感情を持つ子どもが多いというのが現状である。学習指導要領においても自己肯定感を高めることは日本の教育の課題であることが明記されている。

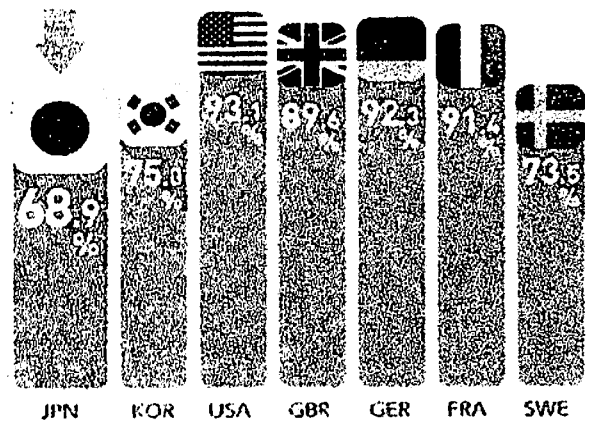
自分自身に満足している

内閣府ホームページより



自分には長所がある

内閣府ホームページより



(2) 学校・地域の実態から

八街市は明治時代に日本政府の政策により開墾が進められて発展した地域である。八街中学校は創立73年の歴史があり、市内の学校では最大規模を誇る。校訓「拓道」をもとに新しい時代にたくましく生きる力を持った生徒の育成をめざして、教職員・保護者・地域の方々との連携を密にして教育を行おうとしている。また八街中学校区は千葉県の福祉教育のパッケージ指定を受けており、2年前から福祉教育を進んで行ってきた。3年間の指定であり、今年度はその集大成となる。地区社会福祉協議会のバックアップは非常に手

厚く、学校に出向いて生徒と共に活動をしてくれたり、募金活動ではその活動意義を伝えながら生徒を支えてくれたりしている。こうした地域の人材を生かしていくことは総合的な学習の時間にも求められているので、こうした連携は非常に良いと考える。

(3) 生徒の実態から

研究を行うにあたって本校の教職員や地域の方々、保護者から意見をいただき、生徒の実態の分析を行った。本校の生徒は素直で明るい生徒が多い。授業に落ち着いて取り組み、学校行事では学級・学年一丸となって一生懸命頑張る姿も見られる。学習面では本校が推進している「学びあい」をもとに小集団での意見交換を積極的に行える。しかしながら本校の生徒にも課題が見受けられる。以下の4点である。

①自己肯定感が低い。壁にぶつかると逃げてしまう生徒がいる。

→明るい生徒が多いが、内閣府のデータと同様、自分に自信を持っていない生徒が多い。何か壁にぶつかると、自分の良さを生かして突破しようとはせず、逃げてしまう傾向がある。例えば部活動で敗退すると「あの選手は〇〇だから勝てるわけない」と口にし、学習面ではテストで失敗をしてしまうと「〇〇はどうせ使わないし、勉強しなくてもいいや」と投げたしたりする生徒も見受けられる。壁にぶつかると次につながらないのである。

②自己有用感が低い。

→自分の存在が周りの役に立っている、貢献していると思えていると、その感情は高くなり、周囲を意識できるために感謝の心も生まれる。事前アンケート(本編P8に掲載)を見ても、自分は役に立っていない、貢献していないと考える生徒が多い。

③地域の方と関わろうとする姿勢が弱い。

→ボランティアを募集してみても、なかなか集まらない傾向にある。募金活動にしても、募金に積極的な生徒は少ない。「八街市のために自分にはこれができる」という意識は高いとは言えない。

④夢や希望が見いだせていない生徒が多い。

→将来の夢や、将来こうしたいという願いが薄い生徒が多いと感じる。例えば「何となく近くの高校でいいや」「どこか高校に行ければいい」「将来働きたくない、きつそう」といった発言、記述がキャリア教育の授業においても見受けられる。

以上の点を踏まえて、生徒が困難にぶつかっても乗り越えようとする姿を育みたいと考え、そのためには生徒の気持ち、自己の生き方について見直す場面が必要であるとも考えた。①～④の課題の原因を分析してみると、今までの教員側の指導に問題があったと考える。すなわち、それらの力・姿勢を育む場面設定が十分でなかったことや問題解決学習の機会が少なかったのである。生徒が課題設定し、情報収集し、整理分析して課題解決に向かうプロセスを経験させられていないことを反省し、改善につなげようとした。

3 指導観

以上の主題設定の理由から、挫折を乗り越えたことのある人と接すること、自分の行動が誰かの役に立っているという認識、地域との関わりを持つ経験があれば生徒の視野が広がり、「自分にもできることがある」「自分は社会の役に立てる」「困難にぶつかっても乗り越えていこう」という姿勢が育めると考えた。また本研究で述べている「自己肯定感」と「自己有用感」を以下のように定義する。

自己肯定感とは… 「自分にできること、自分の良さ、自分が大切な存在であることを認識し、前向きに物事に取り組める姿勢」と定義する。	自己有用感とは… 「自分が誰の役に立っているという成就感であり、誰かに必要とされているという満足感」と定義する。
--	--

4 研究の目標

福祉教育に関連した外部人材の活用による福祉学習が、自己の生き方を見直すきっかけとなり、自己肯定感・自己有用感の向上に有効であることを明らかにする。

5 研究仮説と手立て

【仮説】

外部人材を生かし、自ら興味を持ったことを切り口に学習を発展させ、新しい視点が見いだせれば、自己の生き方を見直すきっかけとなり、自己肯定感・自己有用感が高まるだろう。

【手立て】

手立て(1)身近にある課題を探究する。

生徒が身近な活動の中から疑問に思ったことを課題に設定していくことが、生徒の探究心を高めると考えた。その中で赤い羽根共同募金に際して「なぜ募金活動が行われるのか」という生徒の疑問が出たため、それを追究していくことにした。また生徒には赤い羽根が配布されるが「すぐに失くしてしまう」という声があったため、どうすればその課題が解決されるのかを考えさせる。実際に困っていることを解決しようとする思考は問題解決への「切実感」へとつながる。そして「赤い羽根募金で集められたお金が何に使われているのか」を追究し、それが八街市の小学1年生への本のプレゼントへつながることが分かった時、募金の意義が更に生徒に定着していくと捉えた。学校区全体で募金活動の意義を学び、実際に活用されている例を知ることによって「自己の活動が誰かの役に立っている実感」の醸成につながると考えた。

手立て(2)人材を活用する。

地区社会福祉協議会に協力を依頼してみたところ、八街中学校区の4校（八街中学校、八街東小学校、八街北小学校、八街高校）と2団体（八街東地区社会福祉協議会、八街北地区社会福祉協議会）で「赤い羽根共同募金」を共通テーマに福祉教育を行えるようになった。社会福祉協議会と活動を行えることで、地域とのつながりを感じられると考えた。

また手立て(3)にて述べるが、パラリンピック教育を行うにあたって「実際にパラリンピック選手に会って話が聞いてみたい」という生徒の要望から（財）日本パラリンピックサポートセンター主催の「あすチャレ！スクール」に応募したところ、見事当選し、元シドニーパラリンピック車いすバスケットボールキャプテンの根木慎志氏の講話と車いすバスケットの体験ができることとなった。数々の挫折や苦難を努力によって乗り越えてきた人たちの体験談を聞くことで、生徒が自己の生き方を振り返り、自己の良さを見つめ直し、それが自己肯定感の高まりにつながると考えた。

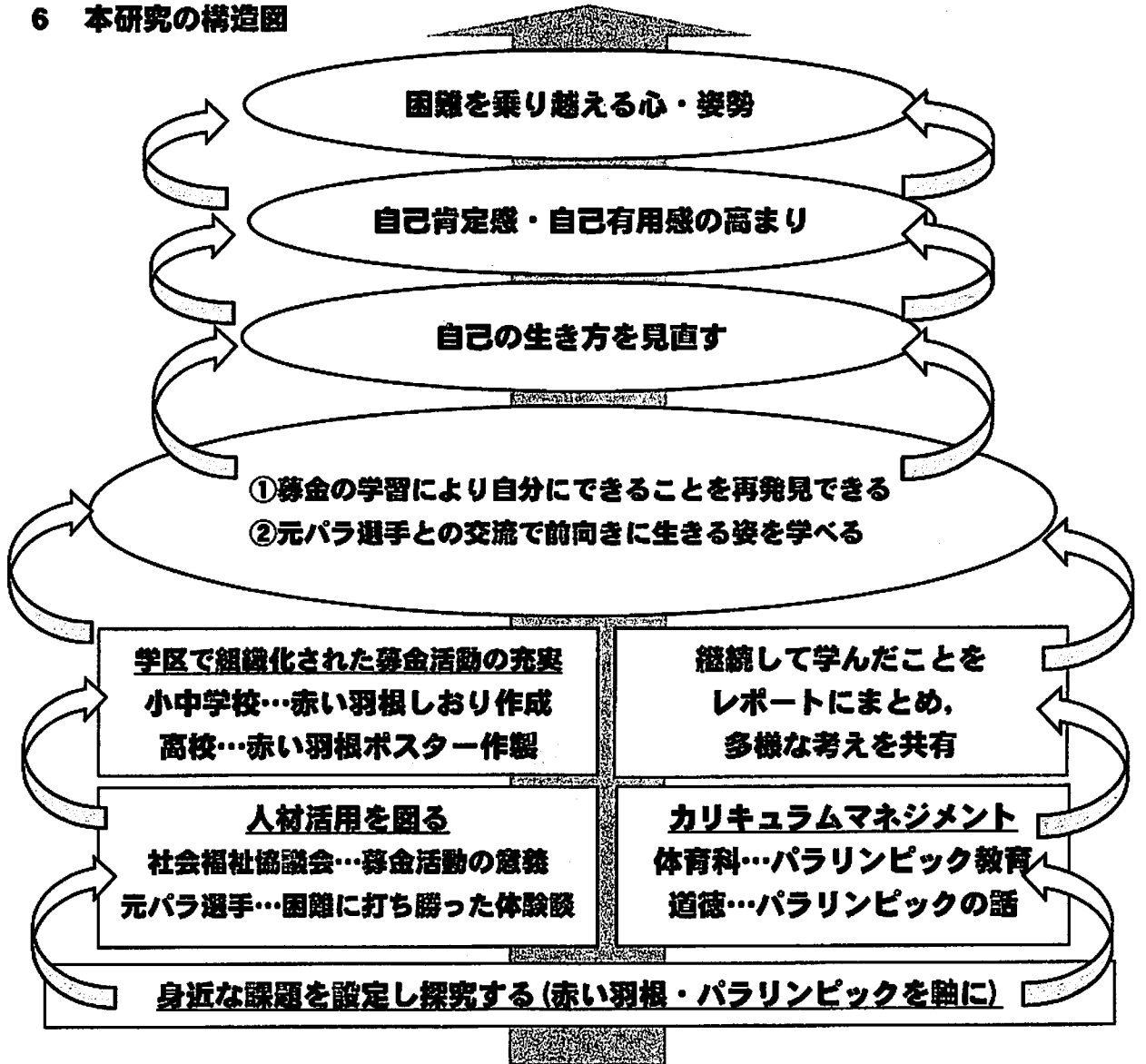
手立て(3)カリキュラムマネジメントを行う。

「総合的な学習の時間については、その課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識・技能の定着やこれらを活用する学習活動は、教科で行うことを前提に、体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動となるよう充実を図る。」と中央教育審議会答申にあるように、指導の工夫が生徒の力・姿勢を高めると考えた。保健体育科ではパラリンピックに関する教育を、道徳では成田真由美さんという元水泳パラリンピック選手の話をもとにした内容を取り扱うことで諸活動に連動性・持続性を持たせられると期待できる。

手立て(4)自己を振り返る。

本校の生徒は地域学習（校外学習）で学んだことなどをレポートにまとめる能力にたけており、表現も様々である。福祉に関して生徒が調べたことは単一ではなく、多様である。例えばパラリンピック選手について、自分が今まで経験してきたボランティアについて、パラリンピックの歴史について調べた生徒などがいた。自らが疑問に感じたことを課題にし、情報を集め、整理分析し、表現していく活動を通して、「自分にできること」「自分がしてみたいこと」が見いだせると考えた。また関心を持ち続けるためにも、目に見える形で多様なレポートを掲示することで生徒の視野はより広がっていくと考えた。

6 本研究の構造図



7 研究の内容・方法

研究内容

- ア 外部人材を積極的に活用した福祉教育を意識した実践研究
- イ 生徒の変容

研究の方法

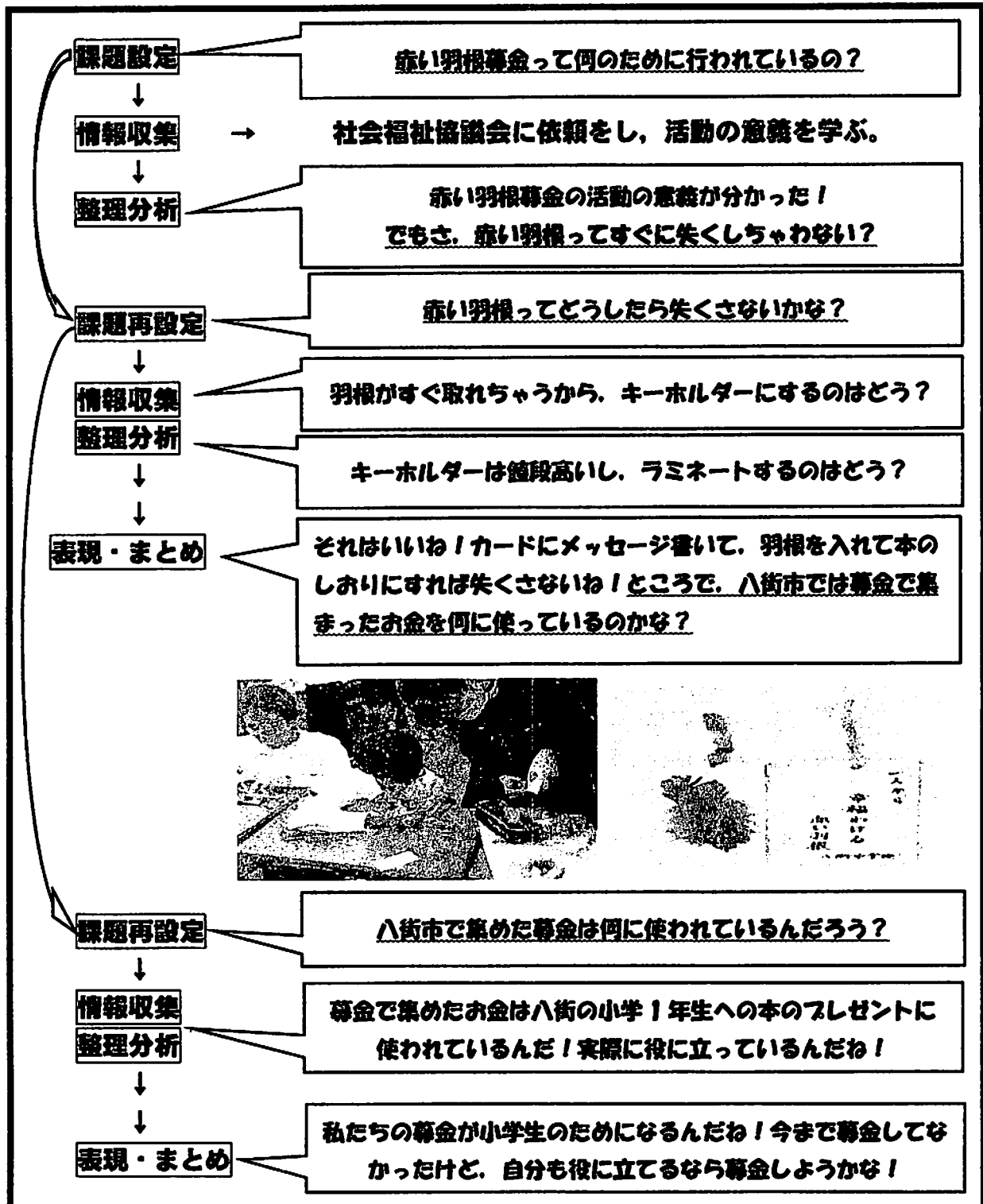
- ア 福祉教育を充実させるための4つの手立て
- イ 生徒の変容

8 仮説の検証・授業の実際

【仮説】

外部人材を生かし、自ら興味を持ったことを切り口に学習を発展させ、新しい視点が見いだせれば、自己の生き方を見直すきっかけとなり、自己肯定感・自己有用感が高まるだろう。

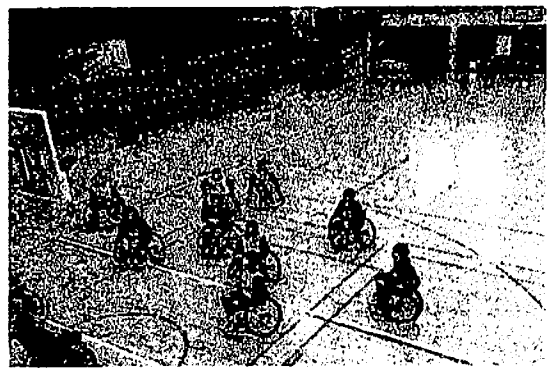
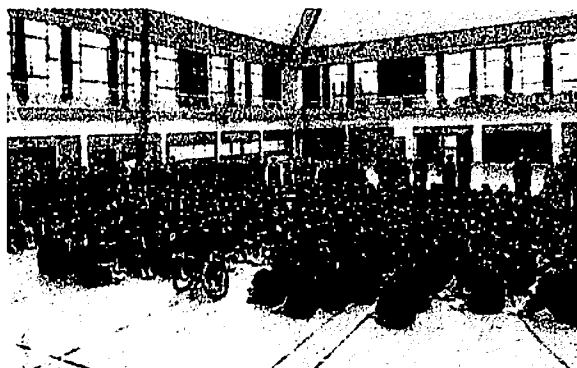
【授業の実際①】（赤い羽根共同募金）



生徒が出した疑問に対し、解決策を考えさせることで生徒は切実感を持って授業に臨むことができた。赤い羽根共同募金について学び、赤い羽根をラミネートしたしおりを作成することで活動の意義を再確認できるアイデアが出た他、募金したお金が八街市の小学1

年生への絵本のプレゼントに使われていることが分ると、「どんなに小さな額でも皆で募金すれば大きな額になり、確実に役に立っている」と募金活動にも積極的になった。身近な募金活動について深く掘り下げていく活動が、募金額の増加にとどまらず、「自分も誰かの役に立てる」「自分が行っていることが社会の役に立っている」という気持ちの変化へとつながったのである。

【授業の実際②】(パラリンピックの授業・あすチャレ school)



パラリンピックに関する授業では自分が調べたいことをもとに調べ、レポートにまとめる活動を行った。「パラリンピック選手について」「パラリンピックの歴史について」「パラリンピックでのボランティアについて」など内容は多岐に渡った。パラリンピック選手の経歴を調べていく中で「もしあなたが事故などで障がいを負ってしまったらどう思うか？」という質問を投げかけた。大半の生徒は「ショック」「死にたくなる」「絶望する」という感想を残している。そうした気持ちを乗り越えたパラリンピック選手を尊敬する声が生徒の中から多く出てくる中で「実際にパラリンピック選手から話を聞いてみたい」という要望が現れた。そこで実現したのが「あすチャレ school」である。

当日は元パラリンピック車いすバスケットボール代表の根木慎志氏による講話と車いすバスケットボールの体験が行われた。現役バスケットボール部員ですら、車いすバスケットが上手くできず、生徒は車いすでの移動に困難を感じていた。その後根木氏が軽やかに車いすでのプレイをすると、生徒からは歓声が上がった。根木氏から生徒に訴えかけた内容は以下の通りである。



「私も下半身不随になって絶望を味わった。しかし周囲の人々の支えで立ち直れた。壁にぶつかっても努力すれば人生は切り開ける」「私自身の力で階段を上げるのは難しい。しかし君達が助けてくれれば、階段を上れる。君達にも誰かを支える力がある」、「自分が無意味な存在だと思わないでください」

この後に生徒が書いた感想から「私は何かあると、理由をつけて逃げてしまっていたが、これからは努力して道を切り開いていこうと思います」「私のような人間でも、誰かの支えになれると知ったことが驚きだった」「実際に苦難を乗り越えた人がいるのだから、自分も何かあったら根木さんを思い出して頑張っていこうと思う」などの意見が多数寄せられた。元パラリンピック選手から体験談を話してもらえたことで「自分も頑張ろう」という前向きな姿勢が生まれ、「自分にも誰かのためになれる、存在価値があるんだ」という気持ちが生まれた。

検証A 量的な検証

①事前・事後アンケート調査（昨年度1年生のデータより抜粋）

【あなたはボランティアや募金活動に興味がありますか？】

	事前	事後	増減
ある	13%	40%	+27%
どちらかと言えばある	15%	34%	+19%
どちらかと言えばない	50%	20%	-30%
ない	22%	6%	-16%

【あなたは自分には長所がある、役に立てると思いますか？】

	事前	事後	増減
思う	17%	37%	+20%
少し思う	16%	43%	+27%
あまり思わない	52%	12%	-40%
思わない	15%	8%	-7%

考察

生徒のアンケートの結果、「ボランティアや募金活動に興味がありますか」という質問では最初は「興味がない」「募金しても何にもならない」という声もあったが、事後のアンケートでは「ある・どちらかと言えばある」の割合が46%増えた。「自分がする募金誰かの役に立っている」「人の役に立てるのであればしたい」という意見も増えた。

「自分には長所がある・役に立てる」という質問では、最初は「自分には良い所がない」「自分が何かしたところで変わらない」という意見があったが、事後のアンケートでは「思う・少し思う」の割合が47%増加し、「小さなことでも誰かの役に立っていることを学んだ」「将来は人の役に立てる仕事に就きたいと思っている」などという意見も多くあった。募金活動の意義や実際の運用について探究した結果と、パラリンピック教育を通して「努力で人生を切り開けること」「自分も社会で、誰かの役に立てる」と認識できた結果が、今回の上昇につながっていると考えられる。

検証 B 質的な検証

生徒の変容（昨年度1年生より・道徳での記録、その他活動より抜粋）

生徒	生徒 A (女子)	生徒 B (男子)	生徒 C (男子)
特徴 ・ 変化前	成績優秀で生徒会執行部の一員である女子。「自分は果たして本当に皆の役に立っているのか」を相談してくるなど、自分に自信が持てていない生徒である。	学力は高いが、自分に自信がなく、授業での発言も少ない。生活日誌を見ると前向きな発言は少なく、否定的な発言も目立つ生徒である。ソフトテニス部所属。	大人しい生徒で、学力は低い。友達も多い方ではない。行事や学級活動には消極的な生徒である。これまでボランティア活動などもしたことはないと話していた。
観点	自己有用感	自己肯定感	自己の生き方を見直す
変化後	「どんな小さなことでも良いから、どんどん生徒会活動を盛り上げていきたい」と前向きに考えるようになった。生徒が運営する生徒集会では多様なアイデアを、自信を持って出すようになるなど、持ち前の力を生かそうとする姿が見られた。	バラ水泳の成田選手の道徳において「もしあなたが障がいを負って歩けなくなってしまうらどうしますか」の発問に対して「確かにショックを受けるかもしれないが、根木さんのように立ち直った人もいるから俺は卑いすテニス選手になって頑張る！」と発言しクラスを驚かせた。部活も意欲的になった。	赤い羽根共同募金とパラリンピック学習の後、「自分もボランティアをやりたい」と友達3人を誘って2月に行われた福祉まつりにボランティアとして参加した。この生徒は2年生に上がって様々なボランティアに参加するようになった。物事に積極的になった。

考察

抜粋したのは3人であるが、全体的に前向きな発言、記述をする生徒が増えたという声が教職員の中から上がった。生徒 A は募金活動の意義を学ぶ中で「どんな小さな額でも誰かのためになっている」と感想に残したことから、進んで活動することが誰かの為になると認識でき、消極的な姿勢がなくなったと考えられる。生徒 B はこの生徒の変容は生徒の言葉からもあるように「あすチャレ school」で実際に苦難から立ち直った選手の話聞いたことが影響していると考えられる。生徒 C はパラリンピック学習において数々のボランティア活動について調べたこと、募金活動の意義を知ったことから「自分も誰かの役に立てる」と分かり、ボランティアにも積極的になったと考えられる。

生活日誌を見てみても、前向きなことを書く生徒が増えた。「疲れた」「だるかった」と

書いていた男子も「今日は〇〇を頑張れた」「〇〇さんが松葉づえで大変そうだったので荷物を持ってあげました」など、良い変化をした生徒も少なくない。

9 結論

検証 A より

【あなたはボランティアや募金活動に興味がありますか？】

↑自分の行動が誰かの役に立てるという前向きな姿勢を問いている

→前向きに物事を考える生徒が約5割増加した。

【あなたは自分には長所がある、役に立てると思えますか？】

↑自己肯定感・自己有用感を問いている

→生徒の自己肯定感・自己有用感は約5割増加した。

検証 B より

→総合的な学習の時間の中で、外部人材を活用した福祉学習を行うこと（4つの手立て）は自己の生き方を見直すきっかけとなり、自己肯定感・自己有用感の向上に有効である。

10 研究の成果（○）と課題（▲）

○福祉教育を通して、世の中には色々な人(主に障がいのある人たち)がいるということを知り、学べただけでなく、そうした人達や社会に対して自分たちができることを認識できた。赤い羽根共同募金では1学期に行った緑の羽根募金よりも募金額が増えた。

○生活日誌の記述を見ると一日の中での良い所を進んで書く生徒が増えた。学級・学年の雰囲気も良くなり、行事でも明るく前向きに努力する姿勢が見られた。

○物事を前向きに捉えられる生徒が増えた。自己肯定感・自己有用感が高まったせい、2学年では委員会代表、級長などの役職に立候補したいという生徒がかなり増加した。将来は人の役に立てる仕事に就いてみたい、考えたいという生徒も増えた。

○学校区全体で共通したテーマを扱って活動をしたため、小中高校を見通した教育が八街中学校区で見込めることとなり、学習の連続性・発展性が期待できる。

▲今回は福祉教育に絞って生徒の力を高めようとしてきたが、より多角的な視点で高められるかどうかを検討しなくてはならない。

▲まだまだより良い生き方が見いだせず、壁にぶつかると何かのせいにして逃げてしまう生徒、自己肯定感などが低い生徒も見受けられているので今後、改善していきたい。

資料編

資料1

総合的な学習の時間・全体計画

資料2

実態調査生徒アンケート

資料3

生徒がまとめたレポート

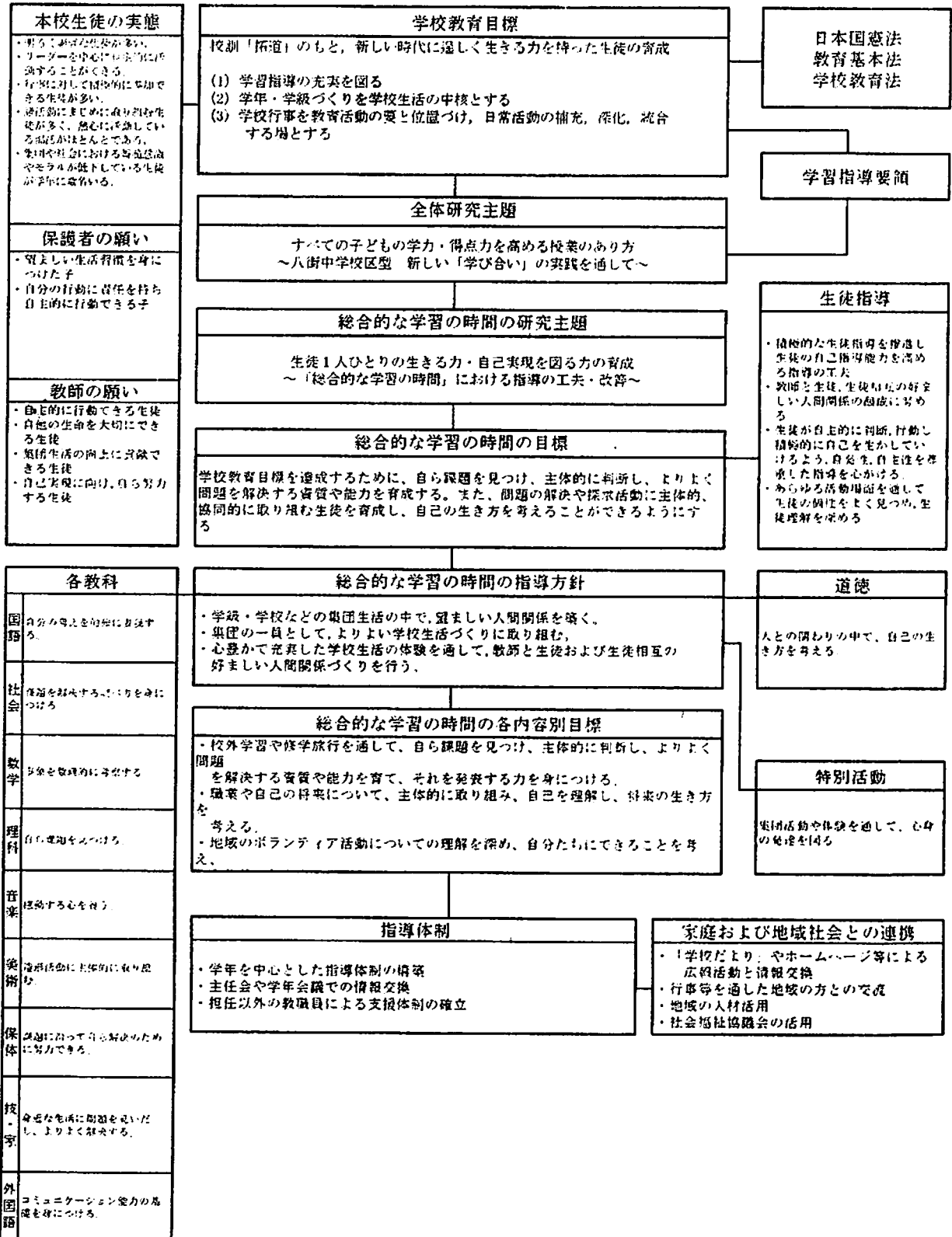
資料4

赤い羽根共同募金活動に参加しての感想

資料5

他教科・領域との関連を意識した年間指導計画

資料1 総合的な学習の時間・全体計画



資料2 実態調査生徒アンケート

男子12名 女子15名 合計27名

事前：平成30年5月11日 事後：平成31年12月14日

【あなたはボランティアや募金活動に興味がありますか？】

	事前	事後	増減
ある	3人	11人	+8人
どちらか言えばある	4人	9人	+5人
どちらかと言え ばない	14人	5人	-9人
ない	6人	2人	-4人

【なぜ、そのように思いますか？】

事前

(ある・どちらかと言えばある)

- 小学校の時にもボランティアに参加したことがあり、やりがいを感じたから。
- 募金をすることで誰かの役に立てると思うから。
- 東日本大震災の被災地にいたことがあり、ボランティアの助けがありがたかったから。
- 小学校時代に学習ボランティアで中学生の先輩に教わり、今度は自分が参加したいから。

(ない・どちらかと言え
ばない)

- ボランティアをしても、お金にならないから。 ●興味を持てないから
- 自分が何かをしたところで何も変わらないから ●時間がないから
- ボランティアの内容が良く分からず、何の役に立っているか知らないから

事後

(ある・どちらかと言え
ばある)

- 赤い羽根募金が大切な活動であると知ったから ○ちりも積もれば山となるように
小さなお金が大きな募金となると知ったから ○自分も誰かの役に立ちたいから
- 色々なボランティアがあることを知り、地域の方々との交流は大切だと思った
- 将来は人の役に立てるような仕事につきたいと考えているから
- いろいろな社会経験になると考えるから

(ない・どちらかと言え
ばない)

- 募金などが大切なのが分かったが、時間がないので街頭募金などに参加できなさそう
- 興味を持てない

【あなたは自分には長所がある、役に立てると思いますか？】

	事前	事後	増減
ある	4人	10人	+6人
少し思う	4人	12人	+8人
あまり思わない	14人	3人	-9人
ない	5人	2人	-3人

【なぜ、そのように思いますか？】

事前

(ある・どちらかと言えばある)

- 評議委員を務めているし、学級のために頑張っていると思うから
- 部活で活躍していると思うから ○明るさは誰にも負けないから
- 運動はだめだが、勉強は頑張っていると思う

(ない・どちらかと言えばない)

- 実際に長所が何かわからないから ●何の役割もしていないし、役に立っていない

事後

(ある・どちらかと言えばある)

- ボランティアに参加して充実感を味わったから ○小さなことでも誰かの役に立つことは本当に良いことだと学んでから、進んで人の手伝いをするようになった。
- クラスで困った人がいれば手伝うようにしているし、誰かの役には立てていると思う
- 評議委員として、学級のために頑張っている ○2年生になったら委員会の委員長をやりたいと思うほど、活動を頑張れているから
- 自分の委員会活動に情念が持てているから ○一応学校は毎日来ているし、休まない元気なところが長所？

(ない・どちらかと言えばない)

- 自分の良さはあるとは思いますが、他の人と比べるとちっぽけだと思ってしまう
- 自分の良さが何のかがまだ分からない

2020オリンピック、パラリンピックボランティア

大会ボランティアの活動は？

大会ボランティアは競技が行われる会場や生活サポートセンター、その他大会関係施設で観客サービスや競技運営のサポート等、大会運営に直接携わる活動を行う。

ボランティア新聞

編集後記	<p>具体的な活動内容と人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ①案内 16,000人～25,000人 ②競技 15,000人～17,000人 ③移動サポート(運搬など) 10,000～14,000人 ④アテンド 8,000～12,000人 ⑤運営サポート 8,000～10,000人 ⑥ヘルスケア 4,000～6,000人 ⑦テクノロジー 2,000～4,000人 ⑧メディア 2,000～4,000人 ⑨式典 1,000～2,000人
------	--

東京2020大会ボランティアについて

東京2020 新聞

①案内	②競技	③移動サポート	④アテンド
会場内等で観客や大会関係者の案内、荷物等のサポート。	競技会場や練習会場内の観客サービス、競技運営等のサポート。	大会関係者が会場間を移動する際に車を運転し、荷物や荷物置き場を確保するサポート。	大会会場等の様々な場所で特選外語でのコミュニケーションサポート。

〈大会・都市のボランティア多岐多彩〉

- ①フィールドキャスト
- ②ゲームスマン
- ③ゲームスマン
- ④フィールドキャスト
- ⑤運営サポート
- ⑥ヘルスケア
- ⑦テクノロジー
- ⑧メディア
- ⑨式典

編集後記

今までボランティアは、観客がメインの上で脇役のようなものかと思いましたが、今回調べてみると、とても大事な活動だと思いました。

2020オリンピック、パラリンピックボランティアについて

ボランティア新聞

二〇二〇年東京オリンピック、パラリンピックのボランティアは、大きく分けて2つのボランティアがある。一つは組織委員会が運営する大会ボランティア、もう一つは各自治体が運営する都市ボランティア。

大会ボランティアは、競技が行われる会場や生活サポートセンター、その他大会関係施設で観客サービスや競技運営のサポート等、大会運営に直接携わる活動を行う。

都市ボランティアは、大会ボランティアとは異なり、大会関係施設ではなく、大会関係者や観客の生活サポートや、大会関係者の案内、荷物等のサポートを行う。

2020年のボランティアは、大会ボランティアと都市ボランティアの2種類がある。大会ボランティアは、大会関係施設で観客サービスや競技運営のサポートを行う。都市ボランティアは、大会関係者や観客の生活サポートや、大会関係者の案内、荷物等のサポートを行う。

ボランティアについて

ボランティア新聞

～活動分野～

- ①指定なし
- ②案内
- ③競技
- ④移動サポート(運搬等)
- ⑤アテンド
- ⑥運営サポート
- ⑦ヘルスケア
- ⑧テクノロジー
- ⑨メディア
- ⑩式典

～体験記～

ボランティアに参加したことで、自分たちの役割が大切だと感じることができた。また、大会関係者や観客との交流も楽しかった。ボランティアに参加して、自分たちの力を発揮することができたと思う。

ボランテア 新聞

【テーマ】
自分も活動から学ぶこと

私は今年フリンセバのボランテアについて、いろいろと調べた。ボランテアには、いろいろな種類がある。中には、災害被災者支援や、環境保護、高齢者支援など、さまざまな活動がある。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。

【編集後記】
今年初めてのボランテア。いろいろな種類がある。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。

ボランテア 新聞

【テーマ】
興味のあるボランテアについて

ボランテアには大きく分けて12種類の活動に分けられ、その中で「防災、被災者支援」ボランテアについて調べた。このボランテアには主に炊き出しや洗濯などの手伝いや、被災者の家の前掃除、ゴミ捨てなどのお手伝い、ペットの世話、生活に必要な物資の配布を行っている。

【編集後記】
防災ボランテアについて調べた。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。

ボランテア 新聞

【テーマ】
大は重兵の防潮林植林ボランテア

私は今年、大は重兵の防潮林植林ボランテアに参加した。この活動は、防潮林の植林を行うために行われる。植林は、防潮林の回復に大きく貢献する。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。

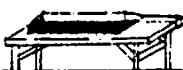


【編集後記】
防潮林植林ボランテアに参加した。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。

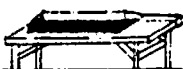


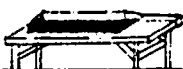


ボランテア 新聞

【テーマ】
ボランテア活動の種類と内容

私たちに、ボランテアをする機会がありますが、「やりたくない」「面倒だ」と感じる人は少なくないと思います。でも、ボランテア活動にはいろいろな種類があります。自分に向いているボランテアを探して、興味があるものには積極的に参加しましょう。

【編集後記】
ボランテア活動の種類と内容について調べた。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。自分も活動から学ぶことが、とても大切だ。

<p>テーマ 和の音楽環境、高齢者のためのボランティア</p>		<p>ホランテア新聞</p>
<p>和の音楽環境の拡充にボランティア がとらえるべきポイント です。 このボランティアは、 音楽療法に基づいた方法で高齢者誰もが 知っている唱歌、童謡をもとに歌っているから、 入所の方々のメンタルケアをサポートしている。 慰問活動ではなく、入所の方々に自発的に 歌っていたための目的。 久しく会っていなかった大人が尋ねて来て 懐かしい歌とともに過ごす。 「幸せなひととき」を目標に...</p>		
<p>編集後記 和の音楽環境の 拡充にボランティアが とらえるべきポイント です。 このボランティアは、 音楽療法に基づいた方法で 高齢者誰もが知っている 唱歌、童謡をもとに歌っ ているから、入所の方々の メンタルケアをサポート している。慰問活動ではな く、入所の方々に自発的 に歌っていたための目的。 久しく会っていなかった 大人が尋ねて来て懐かし い歌とともに過ごす。「幸 せなひととき」を目標に...</p>	<p>石川三喜子の歌 Q1. 具体的な活動内容は？ A. 札幌市立石川三喜子 歌謡館で1990年代に 制作されたCDに収録 された曲を、入所の方 々に歌ってもらいます。 Q2. 活動の目的は？ A. 入所の方々のメン タルケアをサポートし てあげたいです。</p>	<p>電子キーボード お宝をあげてまで 幸せなひとときを 目指して活動を 続けられるのか すごいですね！</p>  <p>マイク 聴かせたい方は ほじくので、 マイクは必需品！</p>  <p>手拍子、時には指揮板 と交えて楽しく 歌っていく。</p> 

<p>テーマ 幸せなひととき さいちかめチャント</p>		<p>ホランテア新聞</p>
<p>地域の高齢者施設なども定期的に訪問し、 音楽療法に基づいた方法で高齢者誰もが 知っている唱歌、童謡をもとに歌っているから、 入所の方々のメンタルケアをサポートしている。 慰問活動ではなく、入所の方々に自発的に 歌っていたための目的。 久しく会っていなかった大人が尋ねて来て 懐かしい歌とともに過ごす。 「幸せなひととき」を目標に...</p>		
<p>編集後記 お宝をあげてまで 幸せなひとときを 目指して活動を 続けられるのか すごいですね！</p>	<p>電子キーボード お宝をあげてまで 幸せなひとときを 目指して活動を 続けられるのか すごいですね！</p>  <p>マイク 聴かせたい方は ほじくので、 マイクは必需品！</p>  <p>手拍子、時には指揮板 と交えて楽しく 歌っていく。</p> 	<p>電子キーボード お宝をあげてまで 幸せなひとときを 目指して活動を 続けられるのか すごいですね！</p>  <p>マイク 聴かせたい方は ほじくので、 マイクは必需品！</p>  <p>手拍子、時には指揮板 と交えて楽しく 歌っていく。</p> 

<p>テーマ 興味のあるボランティア</p>		<p>福祉新聞</p>
<p>一人ひとりがボランティアで仲良くなり たい僕は幼い子ども達と一緒に にあって遊ぶことや話した することが昔から好きだったの で、乳小ボランティアのような僕 より年下の子ども達と交流する ことができるボランティアにすべ く興味があります！ そしてそのようなボランティアを する機会があつたら皆でおに ごこちやけんけんなどをして 楽しい時間を過ごさせたい にしたいです。</p>		
<p>編集後記 。インフォネット ボランティアのことを 調べると、ほとん どのテーマに「募集 」という文字が付け られていて、自分が ボランティアをする 意味を考えたとい いにくい気がした。</p>	<p>調べた内容について 僕はインフォネット は年下の子ども達と 一緒に遊ぶこと、話 すことが好きです。 調べたボランティア は、乳小ボランティア に興味があるのは、 乳小ボランティアの サポートスタッフ、食 事調理のスタッフ、 など、子ども達と交 流できること、楽し い時間を過ごさせ たいです。</p>	<p>調べた内容について 僕はインフォネット は年下の子ども達と 一緒に遊ぶこと、話 すことが好きです。 調べたボランティア は、乳小ボランティア に興味があるのは、 乳小ボランティアの サポートスタッフ、食 事調理のスタッフ、 など、子ども達と交 流できること、楽し い時間を過ごさせ たいです。</p>

<p>テーマ やってみようボランティア</p>		<p>ホランテア新聞</p>
<p>2024年度ボランティア活動の希望するものが 最も多かったのは、ボランティアの紹介です。 1. アテンド 選手と外国語のコミュニケーションを サポートして活躍します。 2. ヘルプ 選手がわからないことを優しく教えて あげたいです。 3. メディア 記者、カメラマンのサポート 記者会見の準備、選手へのインタビュー など。</p>		
<p>編集後記 オリンピックに 関心のあるボランティア 外、あることに驚い た、特にオリンピック ボランティアの 活動に参加したい と、他のボランティア に比べて、参加したい 人が多い。</p>	<p>よくある質問 Q 英語が苦手でも応募できますか。 A 語学を必要としませんが、英語が 得意な人は、より活躍 できます。 Q 何歳から応募できますか。 A 2024年4月1日以前に達した全19歳 (2024年7月1日現在)から応募可 です。 Q どのくらい参加したいですか。 A 何日か参加したい、ボランティア活動 に興味がある人。</p>	<p>調べた内容について 僕はインフォネット は年下の子ども達と 一緒に遊ぶこと、話 すことが好きです。 調べたボランティア は、乳小ボランティア に興味があるのは、 乳小ボランティアの サポートスタッフ、食 事調理のスタッフ、 など、子ども達と交 流できること、楽し い時間を過ごさせ たいです。</p>

赤い羽根街頭募金活動に参加して

... 私はこの活動に参加して、募金の大変さを知りました。...
... 場所によってちがうと思いますが、トウスは人通りが...
... 多く、その分協力してくれる人も多かったです。...
... お金を集めることの努力や、集まった募金がどのように...
... 使われているのかが、とてもやりがいのある活動でした。...

2年 1組 氏名 [REDACTED]

赤い羽根街頭募金活動に参加して

... 赤い羽根街頭募金活動をして、短い時間でしたが...
... みんなが、募金してくれて「寒い中、がんばってね」と言ってくれた人
... が多くうれしかったです。地域のみなさんが、募金してくれてくれて...
... ありがとうと思ったり、きょうちゅうとしたいと思ったり...
... 自分は、募金活動にもまた、参加したいと思っています。...

2年 4組 氏名 [REDACTED]

赤い羽根街頭募金活動に参加して

私は募金をあつたことがなかったのですが.....
募金活動をおこなって見て、募金してくれる人が思っていた
よりもたくさんいて、自分も募金活動をおこなっている人を
みかけたら募金してみようという気持ちになりました。
赤い羽根街頭募金集しかたなのでぜひやりたいです。

2年 2組 氏名 [REDACTED]

赤い羽根街頭募金活動に参加して

私は赤い羽根街頭募金に参加して、いまだに
ボランティアをあまりあつたけど、募金をして、たくさ
ん困っている人にやくだてられていて、すごいいい
体験になりました。人のためになるなら、
これからボランティアに参加してみたいなと思いました。

2年 3組 氏名 [REDACTED]

赤い羽根街頭募金活動に参加して

私は始めて募金活動をやってみてとてもやりがいのある活動だと思いました。とてもたくさんの人達が募金活動に協力してくれてくれたおかげで募金する人が多くいるんだなと感じました。私もおかげで役に立つことができとてもうれしかったです。

2年 1組 氏名

赤い羽根街頭募金活動に参加して

自分はこういう街頭募金をするのは初めて...
...だったのでとてもいい経験になりました。
募金の呼びかけをして、それを聞いて募金してくれりと...
とてもうれしい気持ちになりました。
この体験をこれから学校生活に活かしていきたいです。

2年 1組 氏名

赤い羽根街頭募金活動に参加して

私は、福祉の授業で赤い羽根募金の使いみちを知り、
赤い羽根街頭募金に参加しました。最初は恥ずかしくて
呼びかけの声も小さかったのですが、たくさんの方が募金を
してくださり、自信をもって声をかけられるようになりました。
集まったお金で私たちの町がもっと良くなってほしいです。

3年1組 氏名

赤い羽根街頭募金活動に参加して

僕が募金活動に参加したのは、少しでも福祉
の活動力に協力ができたらと思ったからです。
なので精一杯募金への協力をしてもらえよう
と声を出して頑張りました。また、このような機
会があれば参加したいです。

3年1組 氏名

赤い羽根街頭募金活動に参加して

募金活動に参加して私はすごく楽しかったです。声をかけるのは勇気がいる人ですけど、募金をしてくれた人はすごく笑顔で協力してくれてうれしかったです。声をかけても協力してくれない人もいましたが、その人には、募金の大切さを知ってもらいたいなと思いました。少しでも募金をしてくれればいいなと私は思っています。またこのような機会があれば、また参加したいです!

1年2組 氏名 [REDACTED]

赤い羽根街頭募金活動に参加して

... 私は街頭募金に参加して.....
... い?も外で... して、いろいろ人の.....
... 大変さや... 募金してもらえたりうれし.....
... を感じる事ができました.....
... これから先... 活動していろいろな人がいた募金し.....
... ようと思いました.....

1年5組 氏名 [REDACTED]

資料5 他教科・領域との関連を意識した年間指導計画

平成30年度 総合的な学習の時間 年間指導計画 (カリキュラムマネジメント)

教科	総合的な学習の時間	領域	地域
<p>社会科 地方自治 (3年)</p> <p>美術科 デザインについて</p> <p>国語科 感謝の気持ちを 手紙にしてみよう</p>	<p>赤い羽根共同募金</p> <p>赤い羽根共同募金の活動の意義を学び、赤い羽根をラミネートした葉を制作した。八街で集めた募金が八街の小学1年生に使われていることも学んだ。その葉を持って街頭募金を行い、募金者に葉を渡した。</p>		<p>赤い羽根共同募金</p> <p>八街市産業祭り</p>
<p>社会科 調べ学習の仕方</p> <p>保健体育科 オリンピック パラリンピックについて</p> <p>社会科 高度経済成長期の 日本 (3年)</p>	<p>パラリンピック教育</p> <p>パラリンピックに関する調べ学習を行い、生徒が関心を持つものについて追究した。</p>		
	<p>あすチャレ! school!</p> <p>元パラリンピック選手の講話と車いすバスケットボールの体験を行うことによって障がいへのイメージを変えただけでなく、苦難を乗り越える姿勢について学んだ。</p>	<p>道徳 「夢を求めて パラリンピック」</p> <p>元パラリンピック水泳選手である成田真由美氏の半生から生きる希望について、学んだ。</p>	<p>※歳末助け合い募金</p> <p>※ふくし祭り</p> <p>福祉教育を行った後にこれらのボランティアに参加する生徒が増えた。</p>